

令和8年度 学校自己評価システムシート（さいたま市立岸町小学校）

学校番号 14

学校教育目標	＊かしこく＊やさしく＊たくましく＊なかよく			
目指す学校像	【夢と希望をはぐくむ楽しい学校】◆教職員が子ども一人ひとりのよさを認め、そのよさを引き出す学校 ◆子どもが自分らしく輝ける学校◆保護者・地域の方が子どもを通わせたいと思える学校			

達	A	ほぼ達成	（8割以上）
成	B	概ね達成	（6割以上）
度	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

重 点 目 標	1 主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善を行い、真の学力を育成 2 子ども一人ひとりの多様な幸せの実現 3 学校運営協議会を要とした学校・保護者・地域の連携と、地域とともにある学校づくり 4 教育環境を整備し、安全で美しい学校の実現 5 子どもの可能性を最大限に伸ばす教職員の資質向上研修の充実
---------	---

※重点目標は6つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価	
年 度 目 標					年 度 評 価			実施日令和 年 月 日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、算数ともに全国、市平均と比べ概ね良好な結果である。 〈課題〉 ○令和6年12月「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」諮問の中で、我が国の初等中等教育の第一の課題として【学ぶ意義を見いだせず、主体的に学びに向かうことができていない】点を挙げている。本校においても、同様の課題があると捉えている。	*学習にしんどうい思いをしている子ども・誰一人取り残さない多様な子どもの学びの充実	①特別支援教育の考え方を生かした授業づくりを行う。 ・授業のねらいの焦点化 ・学ぶのが楽しい教材の視覚化 ・効果的な共有場面の設定 ②教師も子どもと共に学びを楽しむ。	*子どもの学校評価②「授業が分かりやすい」の「そう思う」という評価を、昨年度（②61.2%）を上回る評価を実現する。 *主体的に学びを楽しむ子どもの姿の実現。				
		*主体的・対話的で深い学びの授業改善、学びの自律化・探究化に向けた1人1台端末の活用	①「見て、見せて」を各言葉に、互いの授業を学び合う文化の醸成 ②学びの指標で把握した教師自身の課題克服に向け、日常的に取り組む、学年会・本部会等で情報交換を行い、日常的に互いに助言し合う。	*1人年間2回の授業公開を行い、1人年間3回の授業視察と学び合い実施。 *子どもの学校評価⑩「学校におけるタブレット学習」の「そう思う」という評価を、昨年度（⑩70.1%）を上回る評価を実現する。				
2	〈現状〉 ○不登校や不登校傾向の子ども、様々な特性をもつ子ども、様々な配慮を要する子どもなど、多様化している。 〈課題〉 ○様々なストレスや不透明感、生活の変化が子どもの心身に与える影響が大きいことから、今後も、子ども一人ひとりの状況を的確に把握し、適切なタイミングで組織的に支援・相談していく体制、仕組みづくりが課題である。	*教職員が子どものよさを認め引き出し、子どもが自分らしく輝く学校づくりの実現	①子どもにとって学校の一番の居場所は「担任の懐」であることを肝に銘じ、一人ひとりを大切にした教育を実践する。 ②子ども・保護者に寄り添い、担任・専門職・管理職等が太陽のような存在として全力で相談・支援にあたる。	*子どもの学校評価①「学校が楽しい」の「そう思う」という評価を、昨年度（56.1%）を上回る評価を実現。 *互いの違いやよさを認め合い、みんなが「笑顔」になれる子どもの仲間関係が築き上げられている。				
		*子ども一人ひとりへのきめ細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実	①学校のどの職であつても、教育愛をもち、子ども一人ひとりと大切に接する。 ②生徒指導・教育相談・特別支援に係る協議会を2ヶ月に3回開催し、情報を常に共有し、学校全体での統一指導を展開する。	*すべての職員が教育愛に溢れ、組織で機動的な対処ができています。 *学校の全職員が共通理解に立ち、日常的に、岸町のどの子どもたちにも、統一した指導や声掛けが展開できている。				
3	〈現状〉 ○学校運営協議会で熟議した結果、「コミュニケーション力、相手を思いやる気持ち」が「付きたい力」の重点となったことを共有し、学校・家庭・子ども・地域で連携したあいさつ運動や環境整備活動を展開した。 〈課題〉 ○学校運営協議会での取組を、教職員、保護者、子ども、地域に周知し、互いが自分事として取組に参画する必要がある。 ○学校運営協議会に児童会役員を参画させ、子どもと大人が連携した取組を拡大していく。	*学校・家庭・地域が連携し「付きたい力」の実現に向けた活動の充実	①学校運営協議会で、「付きたい力」に焦点を当てた熟議を行う。 ②熟議で導き出した方向性について、実現に向けた具体的な手立てを立案し、保護者・地域へ協働を呼び掛ける。	*今年度の「付きたい力」の重点が決定している。 *熟議で導き出した方向性について、学校ホームページ等を活用し広く地域等に周知し、協働の姿が見られる。				
		*子どもが自分事として学校運営に参画する学校運営委協議会の実施	①第1回学校運営協議会に児童会が参加し、自分たちが目指す学校づくりに向けた大人の協力を呼び掛ける。 ②児童会から学校運営協議会の内容を委員会各委員長に周知し、各委員会の参画を促す。	*児童会が呼び掛けた協力に対し、地域の大人からの協力が得られている。 *児童会役員から、委員会各委員長へ、大人と力を合わせた学校づくりの取組を呼びかけ、取組が実現できている。				
4	〈現状〉 ○築年数が40年以上のため老朽化が進んでいるが、市教委担当課に報告し、迅速に対処している。 ○校内の花壇は、保護者ボランティアやSSNの協力で美しい環境が維持されている。 〈課題〉 ○廊下歩行・階段歩行や、校庭の遊びの約束など、子どもたちの安全を確保する「生活の約束」を徹底する。	*安全で安心できる教育環境整備の充実	①日常的な安全点検を行い、即日対応を行う。 ②廊下歩行・階段歩行や、校庭の遊びの約束など、子どもたちの安全確保のための全職員による指導を徹底。	*日常的な安全点検の実施と改善箇所の発見日に即日対応が行われている。 *廊下を走らない・階段の安全な歩行・校庭遊びの約束を守る姿の実現。				
		*美しく心が豊かになる学校環境の充実	①季節に合った花が、常に咲く校内環境を維持できるよう、子どもの栽培委員会の活動と学校ボランティアの活動とを連携する。 ②子どもの作品を計画的に展示する。	*子どもと保護者の学校評価③「学校は環境美化に努めている」の「そう思う」という評価を昨年度(子49.6%、保37.8%)を上回る評価を実現する。 *計画的に作品が展示されている。				
5	〈現状〉 ○教育委員会から、本市の課題解決に向け、「研究指定」を受け、1月に研究発表を行う。 ○授業を参観し合ったり、学校課題研究で授業研究を行ったりする中で、互いに指導力を高めている。 〈課題〉 ○1人1台端末の入替に伴い、効果的な活用について、定期的に情報交換を行う。 ○「さいたま市立学校における働き方改革マスタープラン」を踏まえた取組を行う。	*体育科を中心とした課題発見・課題解決能力の育成	①低・中・高学年ブロックによる研究授業年3回を通して、授業力の向上を図る。 ②1月の研究本発表に向け、岸町教育の水準向上を図り成果を全市へ広める。	*課題発見・課題解決能力の姿の実現。 *研究本発表に向け、全職員が一丸となり、取り組んでいる。				
		*「さいたま市立学校における働き方改革マスタープラン」達成目標	①「学校と教師の業務の3分類」を踏まえた業務の見直し ②学校における措置の推進 ③教職員の健康及び福祉の確保に関する取組	*子どもを輝かせるため、全職員が健康で、元気に満ち溢れ、常に笑顔と明るさのある職場が構築できている。 *マスタープランの達成目標に近づくことで、教育活動の発展・充実が図られている。				

学校教育目標	かしこく（知育）やさしく（徳育）たくましく（体育）なかよく（コミュニケーション） 豊かな心をもち、たくましく生きる児童の育成
目指す学校像	「夢と希望をはぐくむ楽しい学校」 ○児童が元気に登校する学校 ○教職員が児童一人ひとりのよさ認め、そのよさを引き出す学校 ○保護者・地域の方が子どもを通わせたいと思える学校

重点目標	1 デジタルとリアルをバランスよく融合した「深い学びの実現を目指した探究的な学び」の実現 2 児童が元気に登校し、教職員が児童のよさを認め引き出す学校づくりの実現 3 学校運営協議会を要とし、学校、家庭、地域が連携した学校づくりの推進 4 安全・安心で美しい教育環境の整備の充実 5 コーチングの視点を生かした教職員の指導力の向上
------	---

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	（8割以上）
	B	概ね達成	（6割以上）
	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標								実施日令和8年2月20日	
年 度 評 価								学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策		
学びの質の向上に関する取組	1	・〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、各教科共に高い数値を維持している。 ○全体的に基礎学力は定着しており、より発展的な学習を望む保護者の願いが大きい。 ・〈課題〉 ○全国学調、市学調の分析結果から、問題を日常生活に反映させる力や、文章問題で何を問われているかを読み解く読解力に課題がある。 ○新体力テスト全般において全国及び市平均を下回っており、体力向上への取組が必要である。	・課題を生活化させたり、文章の読解力を高めたりすることに重点を置いた学習活動の工夫改善 ・日常的に体力向上に関わるキャンペーン活動等の実施	①市教委の学力向上カウンセリング研修を全教員で受講し、児童の回答内容を教員が分析する。 ②毎回の授業で課題発見や課題解決の場面の設定や、友達とのかかわりを通した思考の共有を行い、児童が自分の考えがもてる授業を展開する。	①市学習状況調査における国語の読解力に関わる正答率が、市平均以上となったか。 ②授業参観や管理職参観等で、左の具体的な方策により、児童が自分の考えがもてる授業を展開していたか。	A	・本校児童の課題は、文章情報を取捨選択した後、整理したり再構成したりする力や要旨をとらえたりまとめたりする力等である。 ・複数の資料から必要な情報を選び、結び付けるような学習を数多く経験させるようにする。		・3回の研究授業により、教職員の授業力の向上が図られている。 ・授業参観でも友達との思考を共有する場面が多く見られた。 ・体力向上を図る取り組みを色々と工夫されていて、運動は子どもたちの心の健康にとっても良いと思う。先生、児童共に負担にならない程度に、頻度多く継続してできるよい。
						A	・体育の授業で教師が教材研究を深め、技のポイントを理解した上で、児童が自分の課題を解決できる方向性を導けるようにする。		
子どもの発達や心のサポートに関する取組	2	・〈現状〉 ○学校評価「学校は、楽しい」の肯定的な回答が、児童、保護者とも90%を上回っている。 ○「小さなよき社会人として行動しよう」というキャッチフレーズの下、他者とかかわり合いを意識した児童の育成に取り組んでいる。 ・〈課題〉 ○児童は進んであいさつできるようになってきたが、あいさつの仕方には個人差が見られる。 ○登下校の歩行で広がってしまうことがあり、緑道で他の歩行者の妨げとなることがある。	・児童一人ひとりへの細かい教育支援・相談に向けた校内体制の充実 ・「凡事徹底」と「率先垂範」の定着	①生徒指導と教育相談委員会で、児童の情報共有を行うとともに、焦点化した協議を行う。 ②さいたまスクールダッシュボード(SSDB)を実施し、児童個々の情報を蓄積し、細やかな分析を行い適時に組織的な支援・相談を行う。 ①講話朝会や学校行事等で「小さなよき社会人」「凡事徹底」「率先垂範」について日常的に啓発を行う。 ②手本となる姿を児童の中から紹介し、児童に自分事としてとらえさせる。	①生徒指導委員会では児童の情報共有、教育相談委員会では、具体的な事例による協議が行えたか。 ②SSDBによるおはようメーター等の取組を継続的にを行い、そこで得た情報を生徒指導や教育相談に行かせたか。 ①校長の話の後に、各担当が児童の実態に応じて補足の話ができただか。 ②児童の学校評価⑦「きまりを守っている」の「はい」の回答が前年度を上回ったか(63.6%)。	B	・児童の情報について課題を明確にし、効率的に事例研修が行えるようにする。 ・SSDBの実施率の向上と、SSDBで得た情報の活用法について、実践しながら改善を加えるようにする。		・子どもからも凡事徹底等の講話の話が出てくるので、繰り返し聞くことにより意識が高まっていっているのだと感じる。 ・スクールダッシュボードの有効な活用方法については、どの学校でも苦慮している。教育研究所のリーダーシップの下、取組を継続させていきたい ・「学校は楽しい」に対する肯定的評価を90%だと認識するより、10%も否定的評価がある事を重大な事として捉える必要がある。
						B	・児童に指導が染み渡るように、意図的に関連を図った指導を計画する。 ・学校のきまりについて、児童が自分事としてとらえるように働きかける。		
地域とともにある学校づくりに関する取組	3	・〈現状〉 ○学校運営協議会で児童に「コミュニケーション力、相手を思いやる気持ち」を身に付けたい力として共有し、学校・家庭・地域で連携したあいさつ運動や環境整備活動を展開した。 ○運動会や音楽会等の学校行事でYouTube配信を行い、開かれた学校づくりの手立てとなった。 ・〈課題〉 ○学校運営協議会での取組を、教職員、保護者、地域に周知し、互いが自分事として取組に参画する必要がある。 ○学校運営協議会に児童会を参加させ、子どもと大人が連携した取組を行いたい。	・学校・家庭・地域が連携し目指す児童像に迫るための活動の充実 ・児童が自分事として学校運営に参画する学校運営委協議会の実施	①学校運営協議会の熟議で、目指す児童像に焦点を当てた話し合いを行う。 ②熟議で出された方向性について、次年度までには実現できるような具体的手立てを立案する。 ①第2回学校運営協議会に児童会が参加し、自分たちの活動報告や協議会への提案を行い、学校運営に参画する。 ②児童会から学校運営協議会の内容の報告や感想を児童全体に周知し、児童全体に学校運営協議会の存在を知らしめる。	①3回の協議会で毎回熟議を位置づけられたか。 ②熟議で出された方向性について、第3回の協議会までに次年度までに実現できるめどが立ったか。 ①第2回学校運営協議会に児童会が参加し発表できたか。 ②第2回学校運営協議会後に、児童会から児童全体への周知ができたか。	A	・熟議を行うことの定着が図られたので、より実現性のある話し合いとなることを心がける。 ・児童が熟議に参加することで、各委員の学校の教育活動にかかわる意欲を高めるようにする。		・学校運営協議会で熟議を行うことの定着が図られたことは大変よいことである。児童の意欲が高まり視野が広がる期待がもてる。 ・学校運営協議会での児童を交えての熟議やあいさつ運動での代表委員の児童の取組など、以前よりも地域の方々と児童が言葉を交わす機会が増えてとてもよい。 ・学校運営協議会が出た話を児童、保護者に更に周知することが必要。
						A	・児童が学校を応援してくれる大人の存在を知り、その方々とかかわりをもてるようにする。 ・熟議に参加した児童から学校全体に学校運営協議会の存在を周知できるようにする。		
教育環境の整備に関する取組	4	・〈現状〉 ○築年数が40年以上のため老朽化が進んでいるが、危険箇所を洗い出し迅速に対応している。 ○校内の花壇は、保護者ボランティアやSSNの協力で美しい環境が維持されている。 ・〈課題〉 ○学校予算だけでは修理が難しいので、担当課と相談し教育活動に支障がないようにしている。 ○毎日の清掃活動については、時間が短いので、効果的な取組を行うための改善が必要である。	・安全で安心できる教育環境整備の充実 ・美しい学校環境美化活動の充実	①毎月安全点検を行い、報告集計後3日以内に修繕の対応を決定する。 ②施設の改善箇所を覚知した時には、管理職と事務職員で協議し3日以内に対応を決定する。 ①教職員が児童と共に清掃活動を行い、率先垂範を行う。 ②無言清掃の全校実施を定着させるため、環境委員会や代表委員会の児童に改善に向けての話し合いを促す。	①②安全点検及び危険個所覚知後3日以内に、管理職と事務職員で協議し対応について決定できたか。 ①教職員が児童と共に清掃活動を行い、率先垂範していたか。 ②学校評価③「そうじについて」の児童と保護者の「はい」の回答が前年度を上回ったか。(C: 57.5%、P:40.0%)	A	・常に学校環境を整えるという意識で物事をとらえるようにする。 ・これから具体的かつスピーディーな対応を心がける。		・校舎は古いがとてもきれいに清掃されている。 ・伝統ある学校なので、校舎も古くなり、危険箇所もあるかと思う。教育財務課と連携を図り、安全を徹底させていって欲しい。 ・学校環境を整えることも大切だが、人や物に優しく、大切にすることを必要ではないか。
						A	・教職員も児童も学校の環境整備について自分事となるよう、環境委員会を中心に年間を通した取組を行う。 ・児童が主体的に清掃活動に取り組めるような意識付けを行う。		
教職員のキャリア形成に関する取組	5	・〈現状〉 ○教員がアクティブ・ラーニング型の授業に取り組み、授業力の向上に努めている。 ○授業を参観し合ったり、分掌の仕事を分担したりする中で、互いに教育力を高めている。 ・〈課題〉 ○公開授業や示範授業を十分に周知し、互いに学び合える環境にしたい。 ○経験の浅い教員が多く、教材研究や学級経営の仕方について情報を共有し、効率的に働き方を身に付けることが課題である。	・教職員一人ひとりが力を発揮し互いに磨き会える場の充実 ・教職員一人ひとりがICTを文房具のように扱うための研修の実施	①管理職参観を年2回全教員が実施し、授業後に協議を行う。 ②教職員が個人的に自主研修会を開催し、自分の研究を披露したり他の教員に講義を行ったりする。 ①学び方改革推進部やICT教育推進部の教員主催の自主研修会を開催する。 ②運営委員会や学年会、校務分掌会の話し合いに紙媒体を用いずに校務端末で情報共有をする。	①学校評価②「授業が分かりやすい」の児童と保護者の「はい」の回答が前年度を上回ったか。(C:63.3%、P:46.7%) ①年間5回以上、教職員が自主研修を開催したか。 ②学期に1回以上、教職員がICTに関わる自主研修を開催したか。	B	・学習指導の本質である指導のねらいを明確にした授業づくりを目指す。 ・授業において児童が振り返りをする時間をできるだけ確保し、教師と児童双方が振り返りを次時の学習に生かすようにする。		・忙しい中でもたくさんの研修を実施してくださっていることを知り驚いた。若い担任の先生でも子どもたちをしっかりまとめくださっていると感じる。 ・来年度は学習者用タブレットも新しくなり、ソフトも一新するので、スムーズな移行が求められると考えられる。
						A	・教師が自主的に研修を開催する雰囲気加速していく。 ・教師のニーズに応じたICT研修を、学び方改革推進部やICT教育推進部を中心にショート研修を積み重ねる。		